

指導案

パラリンピックってなんだろう？ 共生社会（インクルーシブな社会）について考えよう。




授業の目標

- ・パラリンピックの歴史や価値を知り、すべての人が、参加する機会を奪われないという考え方が、共生社会（インクルーシブな社会）をつくるために大切であることを理解する。
- ・バリアフリー化を進めている町を題材に、誰もが利用しやすい場所にするための提案や自分ができることを考えることを通して、共生社会（インクルーシブな社会）を自分たちでつくりあげようとする気持ちを醸成する。

【授業後にめざす姿】

- ・社会にはさまざまな人たちがいることに気づき、それぞれの立場で考えることができる。
- ・誰もが参加する機会を奪われないために、アイデアを出したり、自分にできることをしたりする。

授業展開（50分）

時間	学習活動と内容	指導上の留意点
5分  約4分	1 パラリンピック・パラスポーツについて知っていることを問いかけるなどし、これから見る映像に対して興味を喚起する。 ○映像を再生し、パラスポーツでは「誰もが参加できる工夫」がされていることをおさえ、ねらいを提示する。	・パラリンピックの競技の映像から導入し、陸上競技の用具やルールを例に、より多くの人が参加し、競い合えるようにするためのいろいろな工夫を紹介している。
共生社会（インクルーシブな社会）について考えよう。		
9分	2 考えよう さまざまな人が一緒に参加し、競技できるように、どんな工夫があるのだろう？ ○どんな用具やルールの工夫があり、それによってどんな人が参加できるようになっているか、グループで話し合わせるなどして考えさせる。 ○発表させ、考えを共有する。	・ヒントのスライドショーを見て、用具やルールの工夫と、それによってどんな人が参加できるようになっているかを考えさせる。 ・左利き用のグローブやジュニアサイズのサッカーボールがあるように、さまざまな人が参加できる用具やルールの工夫があることを伝える。
6分  約5分	3 「映像のクラスでは、どう考えたのかな？」と投げかけ、映像を再生する。	・映像は、ボッチャの工夫に続いて、 パラリンピックの成り立ちや、パラリンピックが社会を変えてきたこと などを解説し、ある町が進めているバリアフリーについて考えることを提示するストーリーになっている。
20分	4 考えよう 誰もが利用しやすい場所にするために、どんな工夫ができるだろう？ ○ヒントを参考に、どんな提案や、自分たちができることが考えられるか、グループで話し合わせるなどして考えさせる。 ○発表させ、考えを共有する。	・ 3 の映像で投げかけられた問いに対して、ヒントを参考に、自分たちなりに考えさせる。 ・ヒントとして、設備や施設を利用する人たちの声がわかるようになっている。 ・「ただ、バリアフリー 設備を設置すればよいのではなく、本当にバリアフリーになっていなければ意味がない。 」「 その場にいる人もできることはある。 」などに気づかせたい。
10分  約3分	5 「映像のクラスでは、どんなことを考えたのかな？」と投げかけ、映像を再生する。 ○映像で伝える「実際に使う人の声を聞きながら、一緒に考え、改善し続けること」の大切さを改めておさえる。 ○本時のふりかえりを記入させ、何人かに発表させ、共有する。	・映像では、以下のことを伝えている。 ●性別・年齢・障害の有無・国籍・経済状況などの違いにかかわらず、すべての人が自分らしく暮らせる社会をインクルーシブな社会という。 ●誰かが変えなければと思い、行動し、それに賛同する人が増え、社会は変わっていく。 ●思い込みや決めつけはよくない。 ●誰かの「やりたい」という機会や、「できたらいいな」という気持ちを奪ってはいけない。

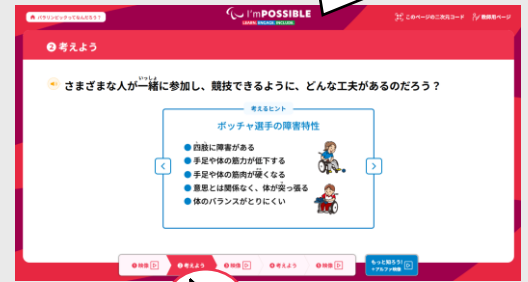
ワークのポイント

考えよう

さまざまな人が一緒に参加し、競技できるように、どんな工夫があるのだろう？

- ・ポッチャの写真を見て工夫を見つけ、書き出させます。
- ・それによってどんな人が参加できるようになっているか考えて、書かせます。

考えよう画面では、自分の端末からクリック！



スライドショー形式で、ポッチャの写真や説明を準備。



ヒントとして、利用する人の声と、設備や施設についての説明を準備。

考えよう

誰もが利用しやすい場所にするために、どんな工夫ができるだろう？

- ・利用する人の声をヒントに、提案や自分ができるところを考えさせます。

利用する人の声の例（一部）

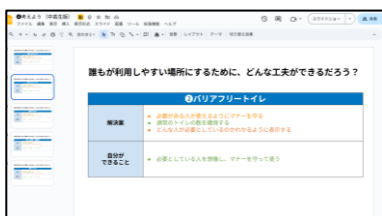


「設備を設置すれば、それだけでよい」ということはなく、**その場にいる人にもできることがある**ことに気づかせたい。

◆ ICTの活用アイデア

グループで考える・クラスの考えを知る（協働的な学び）

グループでの話し合いなどでは、ICTを活用することで、考えを可視化し、効果的に深めることができます。



↑場面ごとに、グループで考えを打ち込んでいる例。クラスの考えを見ながら、さらに考えを広げることができます。（Googleスライドの例）



個人の考えをクラスで共有している例。（ロイロノートの例）



自分のペースで考える

（個別最適な学び）

考えようのページには、**ヒント**を準備しています。ぜひ、各自の端末から開かせ、自分で考える参考にさせてください。

その問いを考えるときに、URLを送付したり、開かせたりすると、活動に集中させることができます。



また、イヤホンを準備すると、映像視聴も含め、自分のペースで、自立的に学習を進めることができます。

ワークシート回答例

I'mPOSSIBLE 本資料の無断での転載、複製、改変等の行為を禁止します。

パラリンピックってなんだろう？

年 組 番 名前

1 映像 ▶ 初めの映像を見よう

共生社会（インクルーシブな社会）について考えよう。

自分で学習する
サイトはこちら



2 考えよう ささまざまな人が一緒に参加し、競技できるように、どんな工夫があるのだろう？



ポッチャのスライドショーを見て、用具やルールの工夫を書き出そう。

- 例
- ・投げてもけつてもよい。
 - ・口にくわえた棒やすべり台（ランプ）などの用具を使つてもよい。
 - ・ランプオペレーターなどサポートする人がいる。

それによつてどんな人が参加できるようになつていくか考えて、書こう。

- 例
- ・うでや足で投球することが難しい人。
 - ・一人だと参加することが難しい人。
- など、いろいろな人が参加できるようになつていく。

4 考えよう 誰が利用しやすい場所にするために、どんな工夫ができるだろう？



3 映像 ▶ 続きの映像を見よう

1. より良くするための提案を考えて、書こう。

- 1 例
解決案
- ・ユニバーサルデザインの目的通り使えるように、設置する場所をよく考えて決める。

- 2 例
解決案
- ・目的とちがう使い方をしないように表示したり、ポスターやSNSで呼びかけたりする。



- 3 例
解決案
- ・点字ブロックの上に荷物を置かないように、呼びかける。

- 4 例
解決案
- ・表示だけでは見づらい人もいるので、必要に応じて案内する人を配置する。

- 5 例
解決案
- ・必要な人が優先して乗れるように、たがいによりり合う。
 - ・わかりやすいように表示を工夫したり、設置場所を変えたり増やしたりする。また、広いエレベーターにする。

2. 自分ができるところを考えて、書こう。

- 例
- ・バリアフリーの設備やし設がなぜ設置されているかを考えて、目的とちがう使い方をしないようにする。
 - ・困っている人を見かけたり、危なかったりするときには、積極的に声をかける。

5 映像 ▶ まつめの映像を見よう

ふりかえり 授業をふりかえつて、気づいたこと、考えたことを書こう。

- 例
- ・パラリンピックがきっかけとなつて、バリアフリーの設備やし設が増えたり、人々の意識が変わつたりしたことがわかつた。
 - ・便利だと思つていた設備も、配りよが足りなかったり、人によつては不便に感じたりすることに気づいた。
 - ・バリアフリーの設備やし設を設置しただけではだめだ、使う人の立場で想像したり、気づいたら声をかけたり行動したりすることが大切だと思つた。